2014年7月17日

人口140人の離島・口永良部島に生きる
ーQOLを考えるー

講義の趣旨・目的

◆目的

離島の暮らしと、
青年層の自然を活用した活性化事業、
高齢者の有志による自然保護活動を紹介し、
＜都市と離島のライフスタイル・価値観を考える＞
QOL

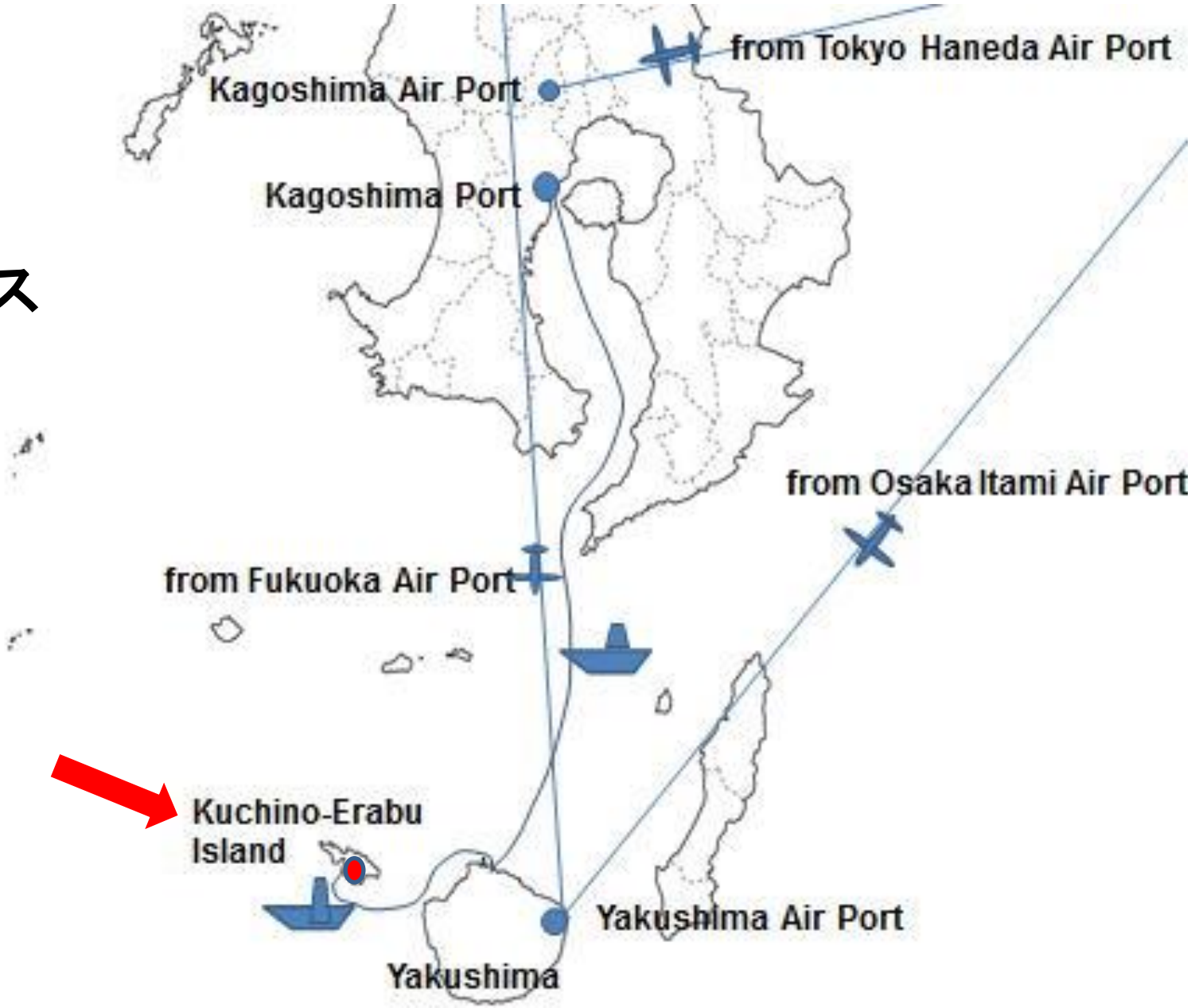
◆対象　＜口永良部島＞

屋久島の西方12㎞、人口140名余の離島
2007年、国立公園に編入されるなど、豊かな自然がある。

暮らし
漁業、農業、子牛の生産、民宿など、
兼業しなければ暮らしは成り立たない。

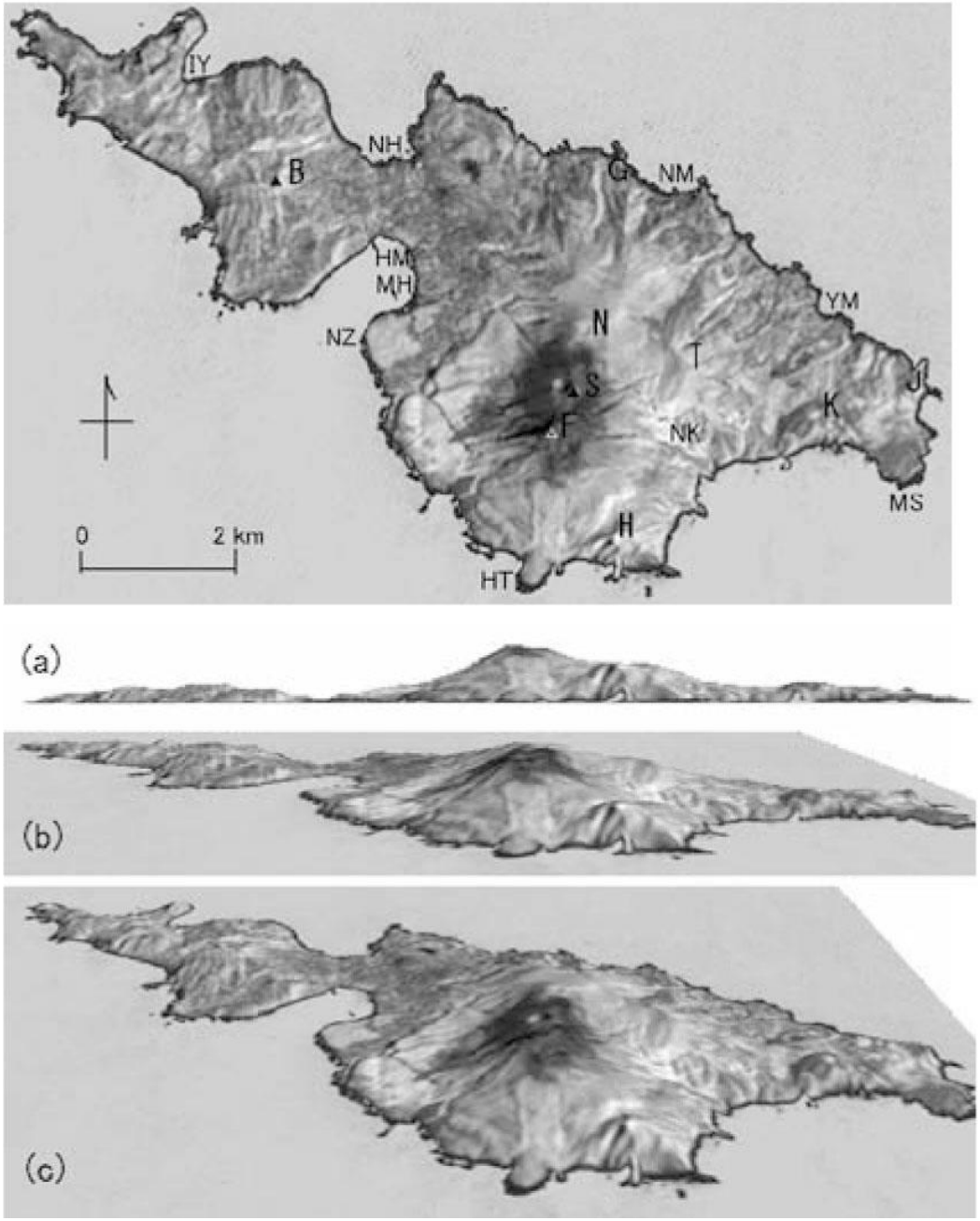
口永良部島は、どこにある？

アクセス


from Tokyo Haneda Air Port
Kagoshima Air Port
Kagoshima Port
from Osaka Itami Air Port
from Fukuoka Air Port
Kuchino-Erabu
Island
Yakushima Air Port
Yakushima

口永良部島は屋久島の西12㎞。永田浜から見た島です。

フェリー太陽から口永良部島
トビウオとイルカに出会えます。



近赤外衛星画像による
口永良部島の姿です。

提供:
木下紀正先生(鹿大)

島の地理

項　目	内　　容
位置	屋久島の西　12 ㎞
面積	35.8 平方 ㎞（甲子園球場の1000倍）
海岸線	49.7 ㎞
人口	140 人　（2014年1月）
人口密度	4.2 人／平方 ㎞
最高高度	657 m

海岸線は、50km。大部分が険しい崖に囲まれています。

波に洗われる海岸線は、厳しい暮らしの象徴。

フェリー港がある入り江は、天然の良港。
西の海は、東シナ海
島は、古くから南方航路の避難港でした。

口永良部島・本村港と
フェリー太陽　500トン

春には転勤される先生方を見送る子供たちと島民の姿が見られる。島独特の悲しい別れ。

左は金岳中学校の玄関　　正面は金岳小学校

金岳中学校
見えないが右に金岳小学校

つつましやかな島の暮らし

人口は140人

お医者さん、ATM、お巡りさん・・・・・・不在

役場出張所	1名常駐	公民館	2集落に、各1か所
診療所	医師ゼロ（巡回） 看護師1名	学校	小・中学校の合併校 複式授業
交番	なし	消防署	なし、消防団
郵便局	1つ	水道・電気	簡易水道・発電所あり
銀行	ゆうちょ銀行 JAコープ ATMなし	企業・民宿	荷役・運送１ 民宿８
コンビニ スーパー 商店	JA店 酒店 ガソリンSS	喫茶店 レストラン	なし

2014年

典型的な口永良部島の家　　石垣が美しい。

家や畑を守る石垣は大切にされています。

湧き水を利用した水道は現役です。

酒屋さんが1軒、食料品はJA店が1軒

活火山と照葉樹林とともに暮らす

金岳小・中学校と本村港の入り江、
活火山・新岳からは2.5km。
人口の9割が、入り江を囲むように暮らします。、
2015.05.07

白煙を吐く火山・新岳576mの山麓には、照葉樹林が広がっています。
山からの白煙
フェリー港から東を見る。

新岳への尾根道には、戦後の伐採をのがれたスダシイの大木があちこちに。

麓の森には
タカツルラン
の花が咲き
ます。
2013/06/18

6月～7月にかけて、頂上付近の南斜面はマルバサツキでピンクに染まります。

豊かな自然に囲まれて

西之湯温泉

満潮になると、湯船にお湯がいっぱいに。

島民が管理して大切に使われる温泉

後ろの入り江は
美浦海岸

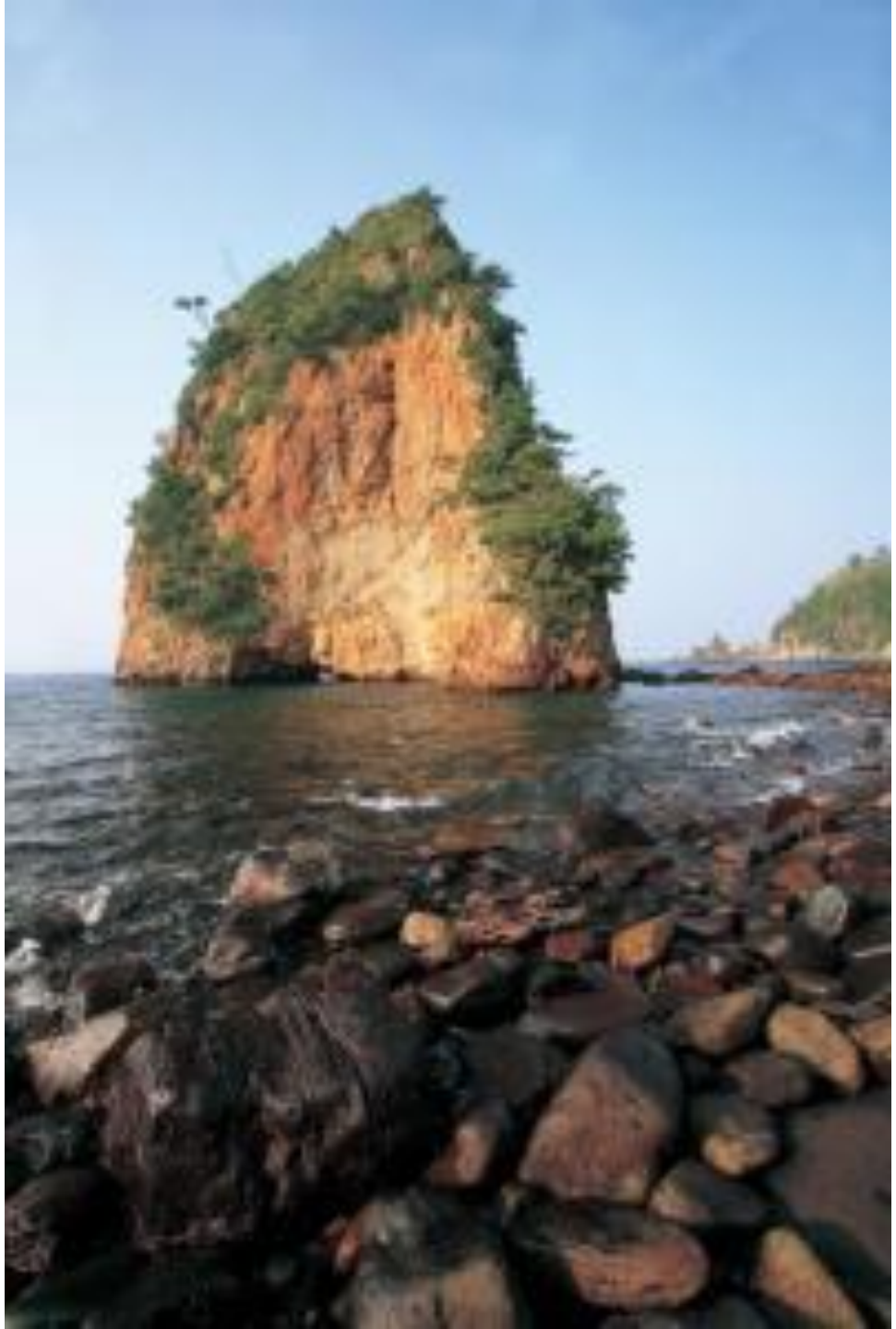
西之湯温泉から美浦海岸。
透明度が高い海です。
2015.05.24

美浦海岸沖には、常に4～5頭のアオウミガメが見られます。
棲みついているのか否か、個体認識してこれを確かめるのが、「えらぶ年寄り組」の今年の課題です。

美浦海岸沖に棲みついているアオウミガメ。片手がなく、
子供たちはジェーンと呼んでいます。

寝待温泉
後ろの岬は仙ヵ水が鼻
2015.05.02

岬は仙水が鼻
ワシの頭の形をした岩が見えます。
岬の先の海中では温泉が湧き出す。
2015.05.22



寝待温泉の
立神

右後方に寝待温泉

写真は、鹿児島県HPから

北には硫黄島（正面）、左に振れば黒島、右に竹島。好天なら開聞岳も望めます。

子牛の生産が盛んでしたが、後継者が高齢化で、せっかくの牧場が、次々と閉鎖されています。

南の水平線には折り重なるようにトカラの島々が。

牛が減って、牧場ではシカが我がもの顔、深刻な事態です。

天然記念物エラブオオコウモリが生息しています。

クマのぬいぐるみのようにかわいい顔です。 写真提供:コウモリ研究家の大沢ご夫妻

豊穣の海に恵まれて

時には、こんな大物も。

2013年に捕獲された71kgのアラです。

エラブの特産の一つは、イセエビ

素潜りやシュノーケリングで観察可能。

エラブウミヘビは、こんなに美しい。

伝統芸能を守って暮らす

神社

口永良部伝統芸能

女性は「日の本踊り」を奉納

もう少し島の説明を

お医者さん、ATM、お巡りさん・・・・・・不在

役場出張所	1名常駐	公民館	2集落に、各1か所
診療所	医師ゼロ（今は巡回） 看護師1名	学校	小・中学校の合併校 複式授業
交番	なし	消防署	なし、消防団
郵便局	1つ	水道・電気	簡易水道・発電所あり
銀行	ゆうちょ銀行 JAコープ ATMなし	企業・民宿	荷役・運送１ 民宿８
コンビニ スーパー 商店	JA店 酒店 ガソリンSS	喫茶店 レストラン	なし

2014年

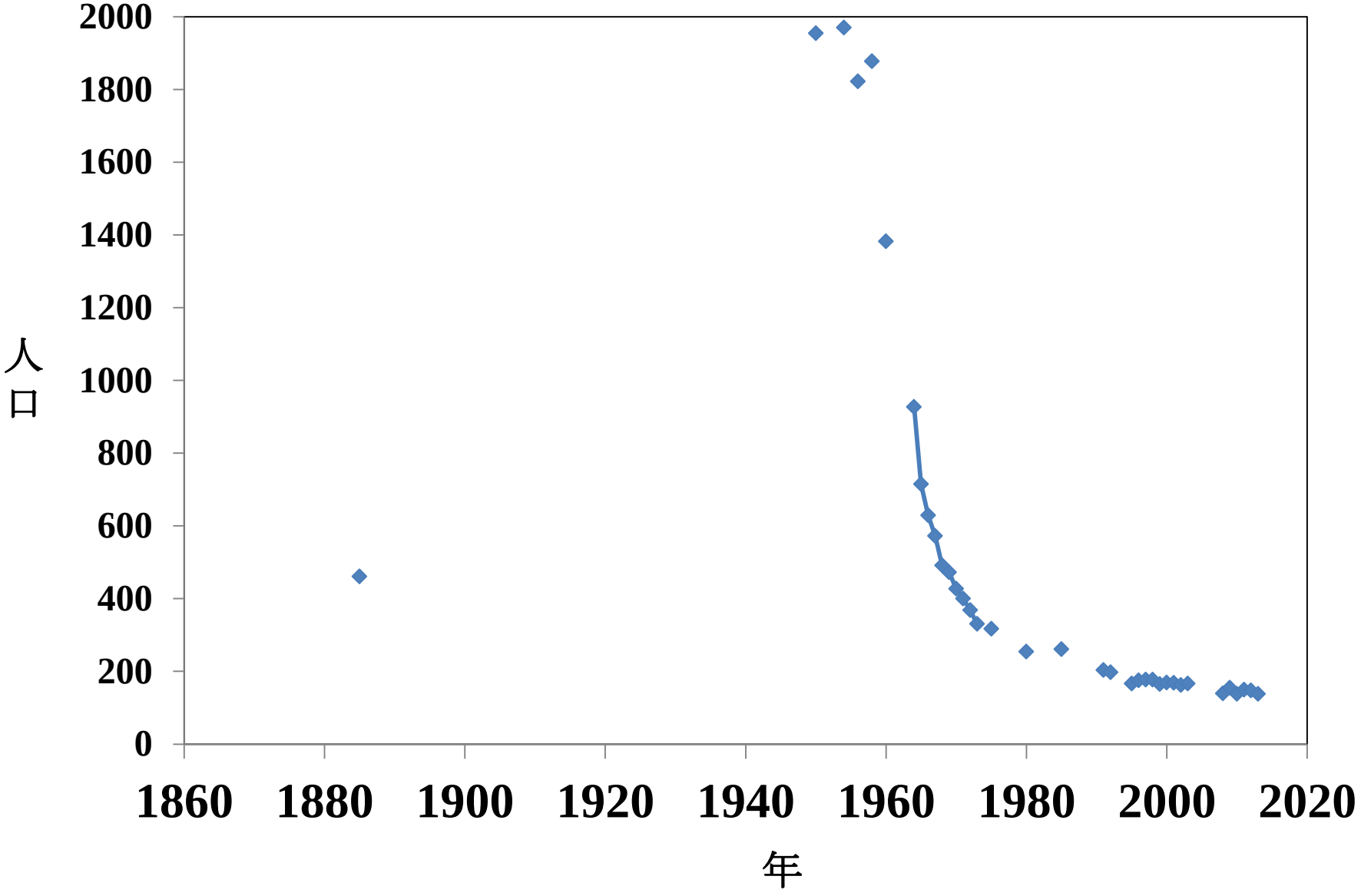
生業のすべて

数値①は島内従事者数、①は島外

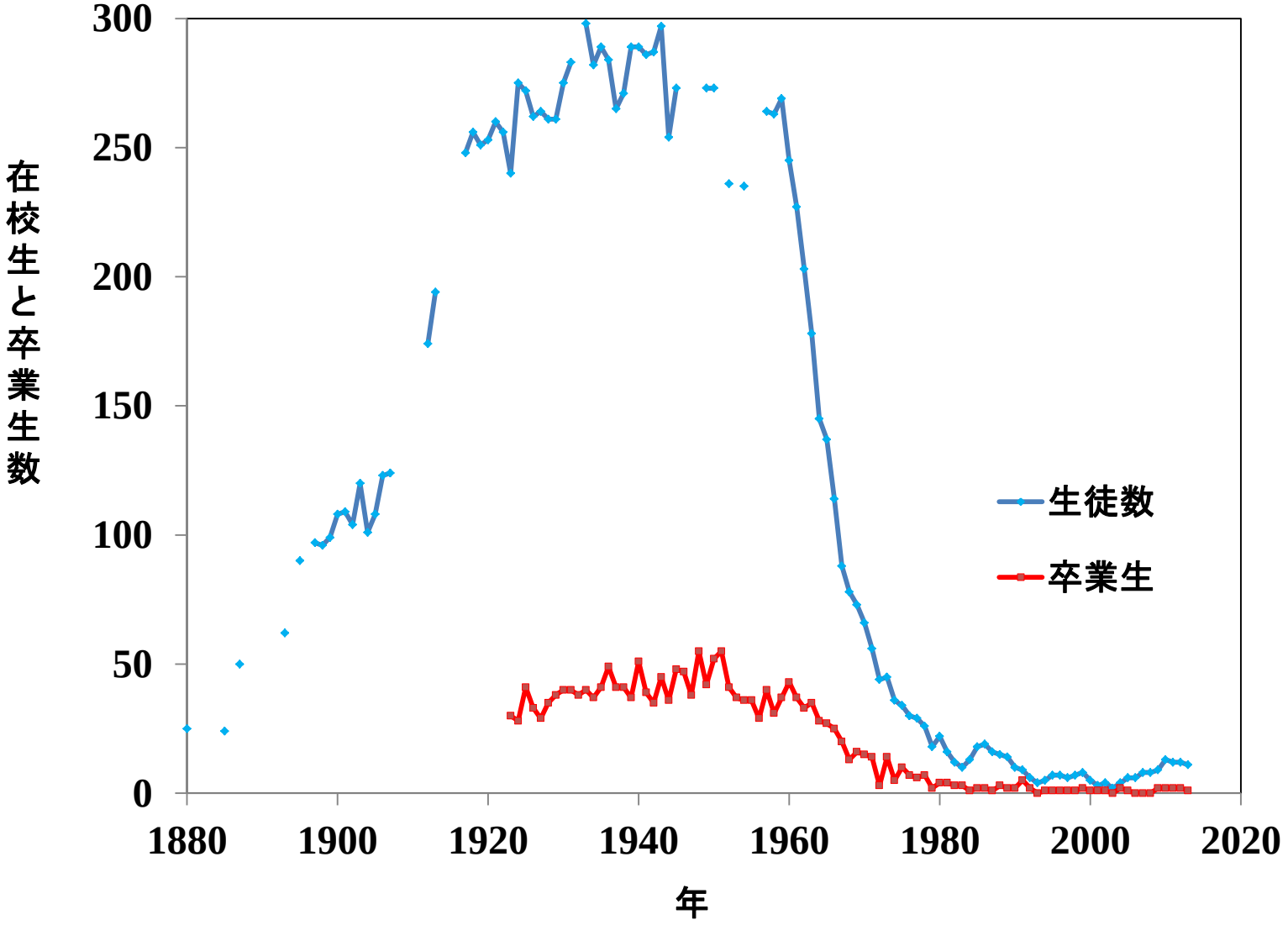
区　分	職　場
常勤の職業 内⑰外⑭	郵便局員①①、農協職員①、発電所作業員④、教職員⑪、学校管理職員①、給食調理②、役場職員①、医師①、看護師①、区長①、温泉管理①、草払い②、里親③
島内の事業⑲	民宿経営8軒⑪、荷役・運送業1社⑤、酒店1軒①、ガソリンSS 1店②
農・漁業⑬	小規模な漁業④、渡し船①、子牛生産⑧、焼酎用カライモ栽培、ガジュツ栽培
副業④	大工、土木作業員、重機運転、公共事業の下請け・メンテ（環境省、気象庁、NHK、新聞配達、テレビ、簡易水道、電報、電話、郵便局・・・・）

従事者合計　　島内　53名、島外14名

高度成長期に減った島の人口　　微減が続きます。

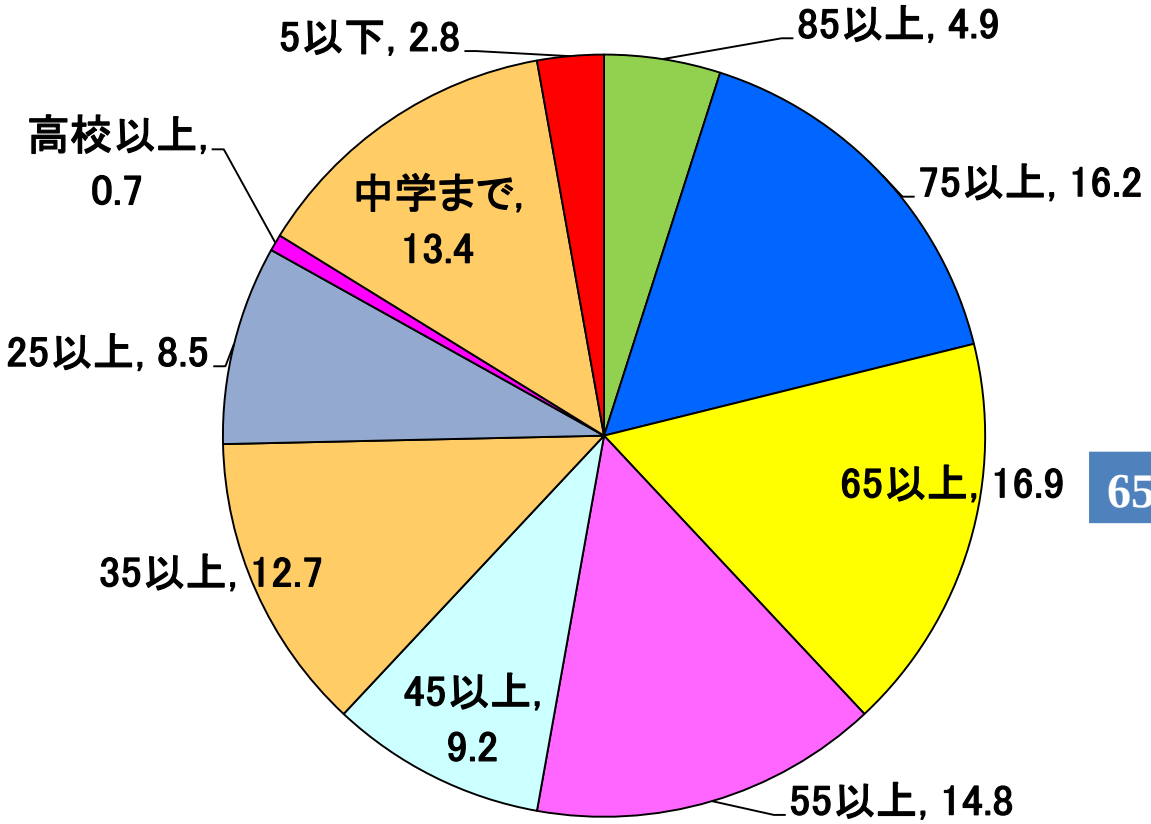


小学校の開校から現在まで



年齢層別の人口分布（推定）

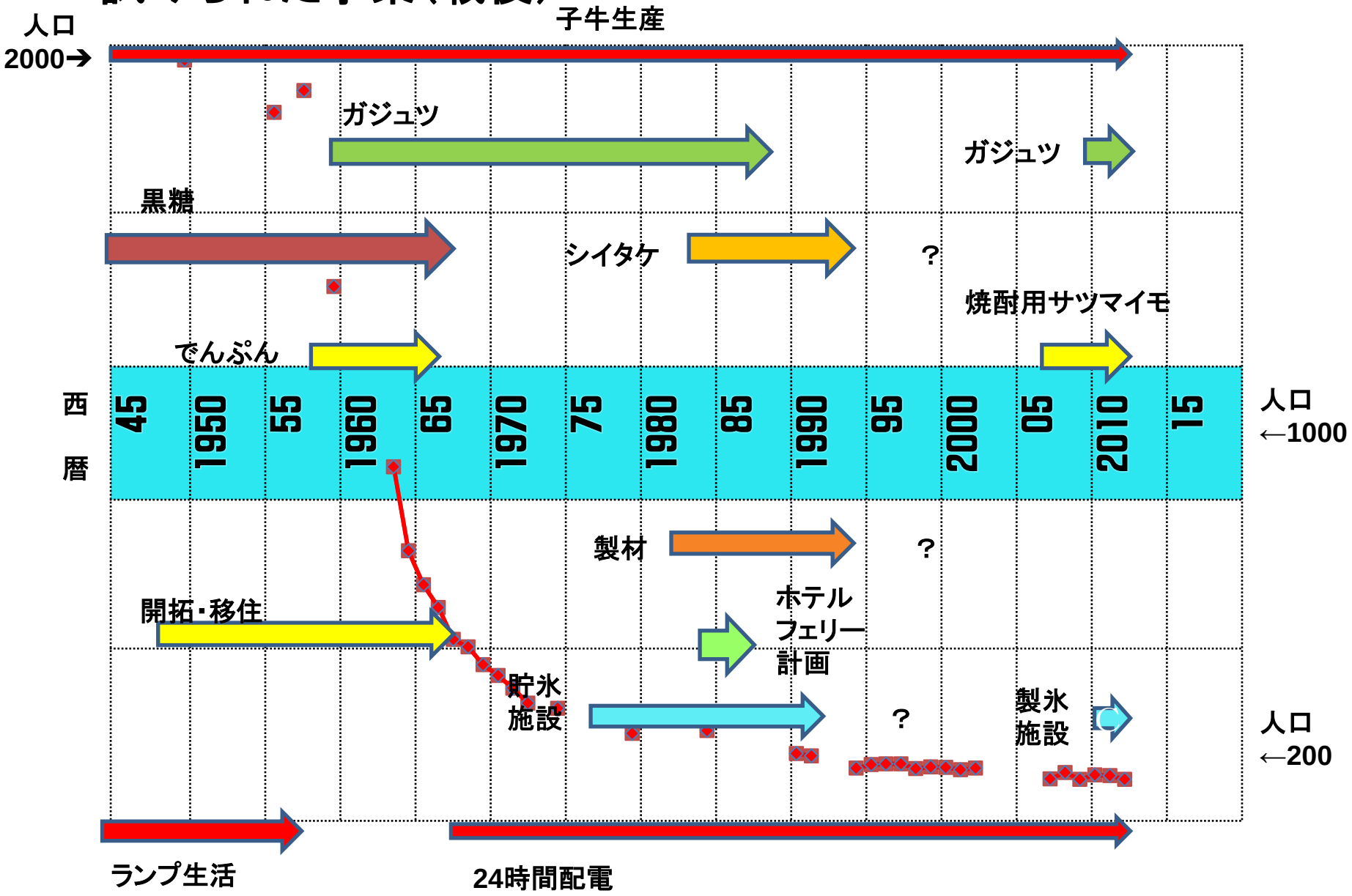
以上は年齢、数値は　%



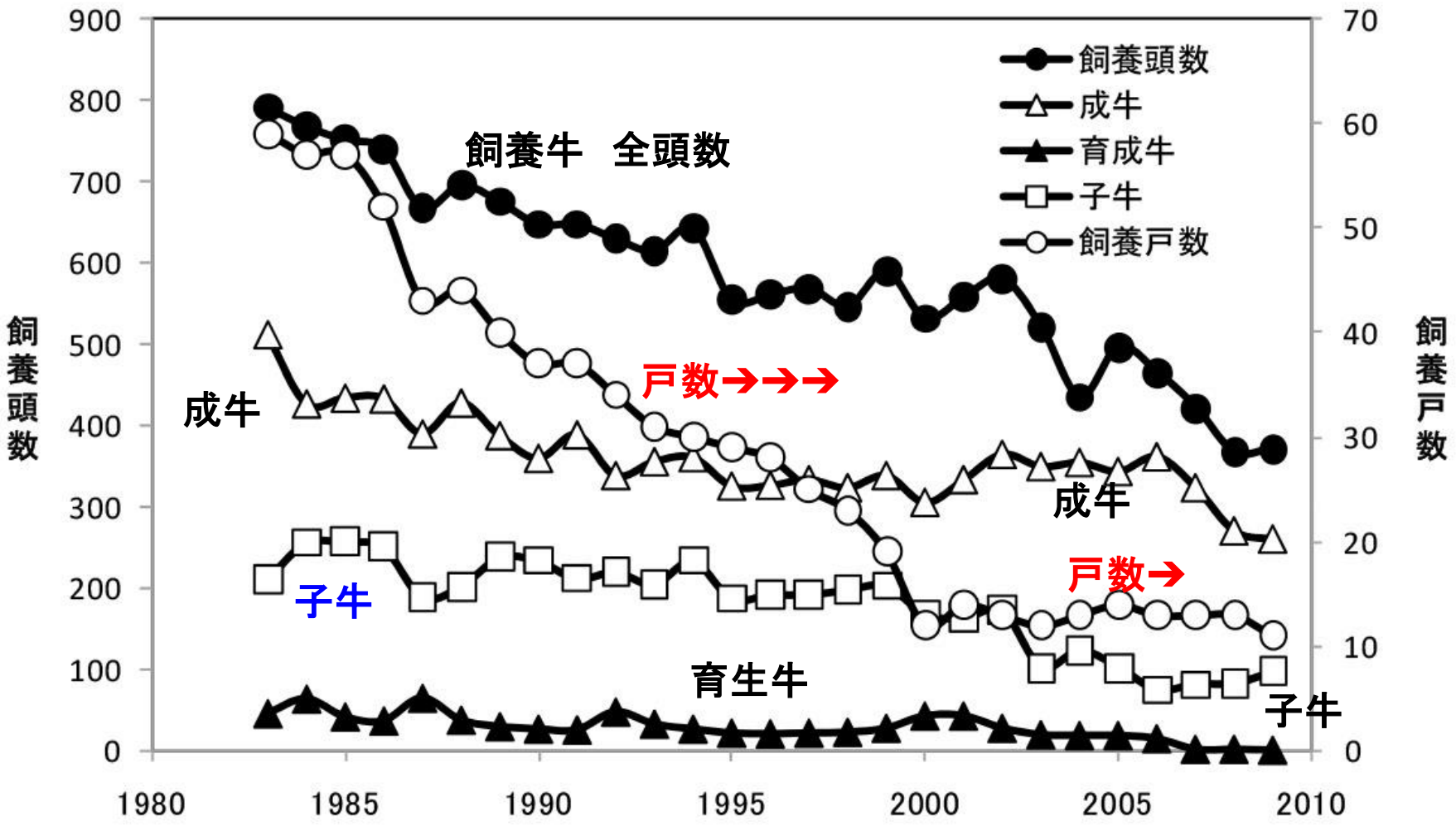
65歳以上　35%

個人情報保護のために推定での概算値（2013年）

試みられた事業（戦後）


人口
2000➔
子牛生産
ガジュツ
ガジュツ
黒糖
シイタケ
？
焼酎用サツマイモ
でんぷん
西
暦
45
1950
55
1960
65
1970
75
1980
85
1990
95
2000
05
2010
15
人口
←1000
製材
？
開拓・移住
ホテル
フェリー
計画
貯氷
施設
？
製氷
施設
人口
←200
ランプ生活
24時間配電

子牛生産のこれまで



鹿児島大学

島の課題

◆産業がない
　働き場所がない

◆人口減少
　高齢化

◆生活基盤の弱さ
　医療　　1～2週に1度
　福祉　　介護保険の見返りなし

莫大な予算投入

島にかかわる予算

◆地域運営（本村地区）

予算規模　440万　＋　260万

補助金　600万、自治会費など100万

支出

道路確保の草払い、伐採

温泉管理（260万）

水道、外灯

◆離島振興予算　5600万

港整備・治山・道路整備

山海留学

◆フェリー運航費

3.5億（種子島航路の経費も含む）

2012年度データ

島での公共工事（2012年度）

事業内容	事業費
橋の架け替え 教職員住宅新築　教育委員会 消防詰所新築 防潮堤新設 （特定離島ふるさと起こし推進事業）	390万 1300万 2000万 1900万
合計	5590万
予算の出所　国土交通省 農水省 総務省 鹿児島県 屋久島町	

2012年度データ

2013年度

◆ハード
物揚場
漁港船揚場
防災無線設備の新設
砂防ダム
気象庁・火山監視設備
枯れ木の伐採除去
製氷設備（漁獲の出荷）

◆ソフト
南海ひょうたん島留学（山海留学）
域学連携事業（慶應義塾大学）
シェアーハウス事業（交流促進）

法的基盤

離島振興法　1953年制定（2013年改訂）

◆離島は、
国の領域、排他的経済水域などの保全、
海洋資源の利用、
多様な文化、自然環境の保全、
自然との触れ合いの場及び機会の提供、
食料の安定的な供給など、

◆重要な役割を担つているのに、
人口の減少
高齢化の進展など、
厳しい自然的社会的条件にある。

→ 離島における定住促進と、
経済の発展で、国民の利益増進

離島をめぐる状況の変化

改正離島振興法（2013年施行）
資源確保、国境防衛
アベノミクス（箱もの行政の復活）

→

◆離島活性化交付金
　地域活性化、定住の促進
◆定住促進
　海上輸送費の低減、戦略産業の育成、雇用拡大
◆交流の拡大促進
　観光の推進
◆定住条件の整備強化

など、市町村の創意工夫を活かした取り組みを支援
（ソフト）

予算の出所

◆根拠法

改正　離島振興法

◆予算

通常予算

＋離島活性化交付金

◆関係省庁

総務省

国土交通省

　気象庁

農水省

　水産庁

　林野庁

鹿児島県

屋久島町

危機感を持つ島民

島民の危機感

若者
若いカップル
幼児　　が少なくなってきた。

→ このままでは、
学校に生徒がいなくなる。

→ 学校がなくなると若者が来なくなる。
危機感

老いも若きも
島の活性化に力を注ぐ

2000年代の後半
危機意識を持った島民は、さまざまな活動を始めた。

口永良部島活性事業組合　2007年

2007年
　焼酎用のサツマイモ栽培

2012年
　ガジュツ栽培

根茎

莪朮（がじゅつ）

ガジュツの収穫

来島した学生たちも、手伝い

事業組合が焼酎用のカライモを生産。耕地はあるのに借地が困難。

未来創造協議会

シェアハウス・プロジェクトは、
定住促進
雇用調査　　を目的にする。

未来創造協議会のねらいは

まずは、短期の来島者を増やすこと

→ 長期には、島に住む若い人の増加

カライモ
ガジュツ
牧場
漁師
観光（エコツアー）

「えらぶ年寄り組」の紹介

正式名：　子々孫々の口永良部島を夢見る　えらぶ年寄り組

2012年8月に旗揚げ

私たちは、
この口永良部島の、生き物や環境、文化や歴史遺産を守り、それらを子々孫々に伝えたいと願い、また、暮らしに忙しい若い人手伝いたいと云う想いを持つ
年寄ボランティアグループです。

当初、考えていたこと

年寄り組　EP計画　2013年3月

自然の
調査・保護

＋

自然の
活用

学術活動 もふくめ
えらぶ年寄り組が担当

区や青年たちが
すでに進めている。

島外ボランティア
プログラム

目的
島の活性化

短期目標は

雇用確保と若人の来島増加、定住者の増加

えらぶ年寄り組は

自然を守る「担い手」となり

→ 島の若い人が自然を活用

「えらぶ年寄り組」の人手不足は、
島外ボランティアに頼る。

年寄り組の活動

こんな活動をしてきました　　2012年～

（1）自然保護の活動
　ウミガメ
　エラブオオコウモリ
　植生保護
　　タカツルラン
　　シカ対策
　　松枯れ調査
　トレッキングコースの整備

（2）情報の発信
　ホームページの管理・運営
　「月刊くちのえらぶの自然」の発行
　見学会・学習会・講演会

自然保護

エラブオオコウモリ

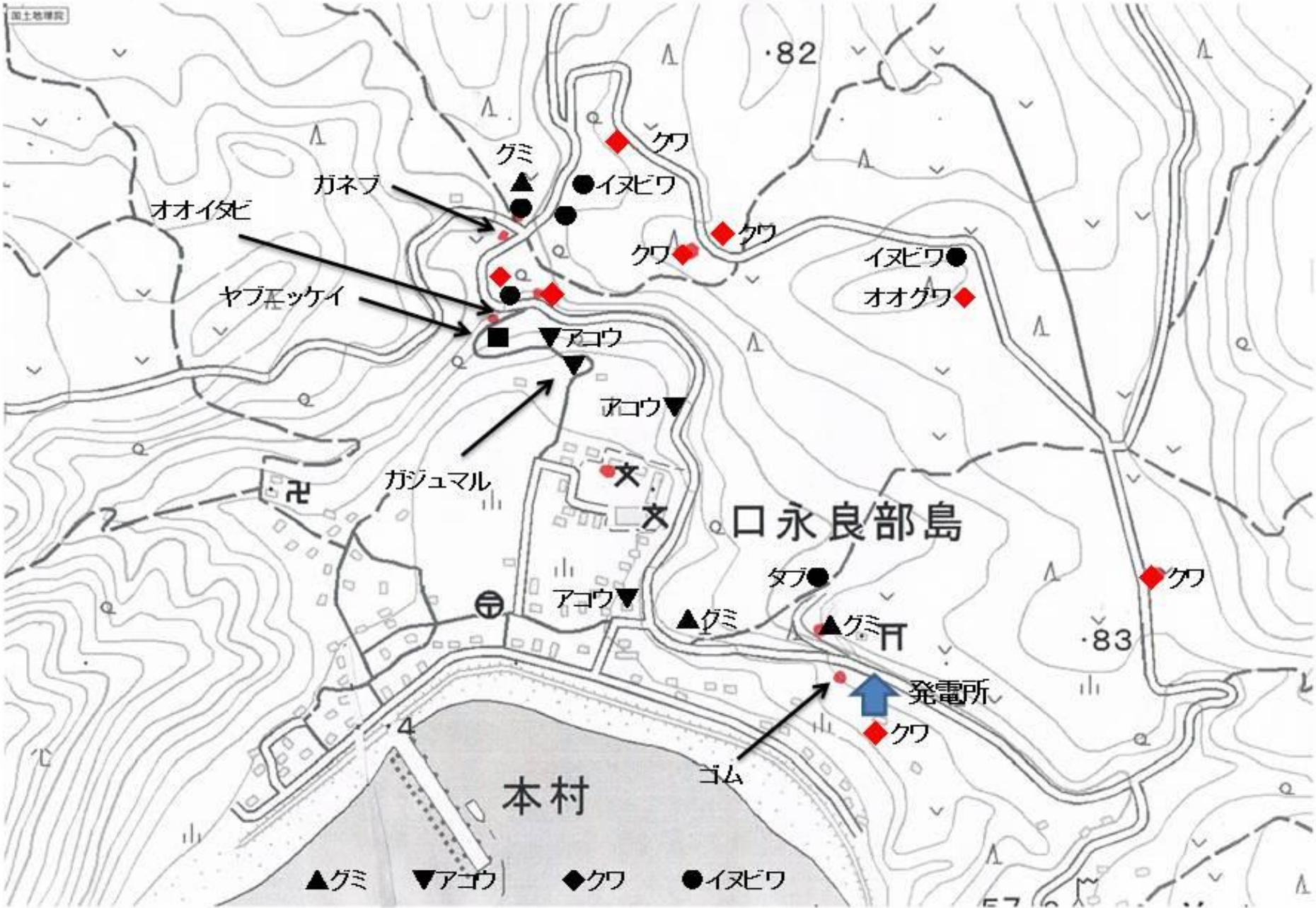
ウミガメ

植生保護
　タカツルラン
　シカ食害防止

エラブオオコウモリ

頭数計測
ペリット観測
コウモリ・見どころMap作成
学習会・見学会の開催

エラブオオコウモリの見どころ　MAP



向江浜のウミガメ

2012.8　　向江浜復元の要請
2013.5～7　屋久島町　ウミガメ保護･監視業務
2014.5～7　　継続

ウミガメ　2013年シーズンには

（1）アカウミガメ

上陸足跡	64回
産卵（移植）	24頭（卵　2874個）
子ガメ足跡から	19頭の産卵

（2）アオウミガメ

上陸足跡	4回
産卵（移植）	1頭（卵　102個）

しゅんせつ海砂の投棄場所が向江浜になったので、移植する必要があった。

ウミガメの上陸・産卵する向江浜
2015.04.10

アオウミガメの孵化・脱出

子ども達とともに子ガメの帰海を見守る

看板作りを年寄り組で引き受けました。

絵は子ども達が描いたもの。

アオウミガメ

美浦漁港の沖合

2014～　アオウミガメ生育調査（始めます）

島の北側の入り江（美浦漁港）には、
アオウミガメが生息？

確かにそうなのか？
水中カメラで個体識別

アオウミガメが棲みつく
2015.05.24

美浦漁港のアオウミガメ。4，5頭が目撃されています。

片手のないアオウミガメ。このカメは確実に長年にわたって棲みついています。
子供たちは屋久島のカメにならって「ジェーン」と呼んでいます。

植生の保護

（1）タカツルラン
辻田先生（佐賀大学）と屋久島まるごと保全協会
えらぶ年寄り組との共同研究（2013年～）

活動内容（お手伝いですが）
　ランの生育状態のモニタリング
　種採取や播種サンプルのチェック

（2）シカ食害
　投光器を使ったシカ頭数調査

（3）枯れ松調査

トレッキングコースの整備

前田ーー野池コースの整備

寝待ーー野池コースの整備

情報発信（印刷物・発表）

	年寄り組の主催
2013. 5	ウミガメ講演会　鹿大ウミガメ研究会　小林氏
. 6	タカツルラン講演会　東北大学　辻田氏
.10	東京環境工科専門学校　校長　幸丸氏
.11	タカツルラン見学会
2014. 3	ウミガメ講演会　屋久島うみがめ館　大牟田氏
	金岳小・中学校（授業・見学会の協働）
2013. 6	ウミガメ・コウモリ学習
.12	ウミガメ産卵地カンバン作成
.12	ESD教育プログラムへの協力
	データ提供(世界遺産学習全国サミットinなら)
2014.2	昔遊び

ESD: Education for Sustainable Development

情報発信（印刷物・発表）

	月刊　くちのえらぶの自然
2013.5	創刊
	ウミガメ
2014.3 .4	投稿 日本ウミガメ会議 ニュースレター,98,pp2-6（2014） 九州ウミガメ会議での報告
	タカツルラン
2014.6	日本菌学会報告（共同研究は2013年から）

ホームページの管理・運営

年	ホームページ
2012	口永良部島ポータルサイト http://kuchi-erabu.org/
2012	年寄り組ホームページ http://kuchi-erabu.org/senior/
2014	ポータルサイト英語版 http://kuchi-erabu.org/eng/

年寄り組の活動
今後は

「年寄り組」の獲得資金　　2014年

ウミガメの保護監視　　8万円
タカツルラン保護　　10万円（佐賀大学と共同）

環境省
グリーンワーカー事業　　45万円

ゆくゆく「年寄り組」は

保護活動を、
数日間ボランティアで手伝ってもらいながら、
自然を学んでもらう。

「体験型自然学習キャンプ」

計画中

ユネスコ・エコパークを目指す

◆屋久島は1980年に、
　エコパークに認定
　2015年に、再申請のタイムリミット

◆町は、拡大を申請
　口永良部島も

ユネスコ

エコパークとは？

生物圏保存地域（ユネスコ・エコパーク） BR

◆MAB計画の一つ
生物圏保存地域 （BR） の指定（1976年～）

◆BR （ユネスコ・エコパーク）
陸上・沿岸・海洋生態系の保護区
生物多様性の保全と人間生活との調和
および
地域社会の持続的発展を実現する場

（所轄： 文部科学省）

BR: Biosphere Reserves

ユネスコ（国連教育科学文化機関　UNESCO）

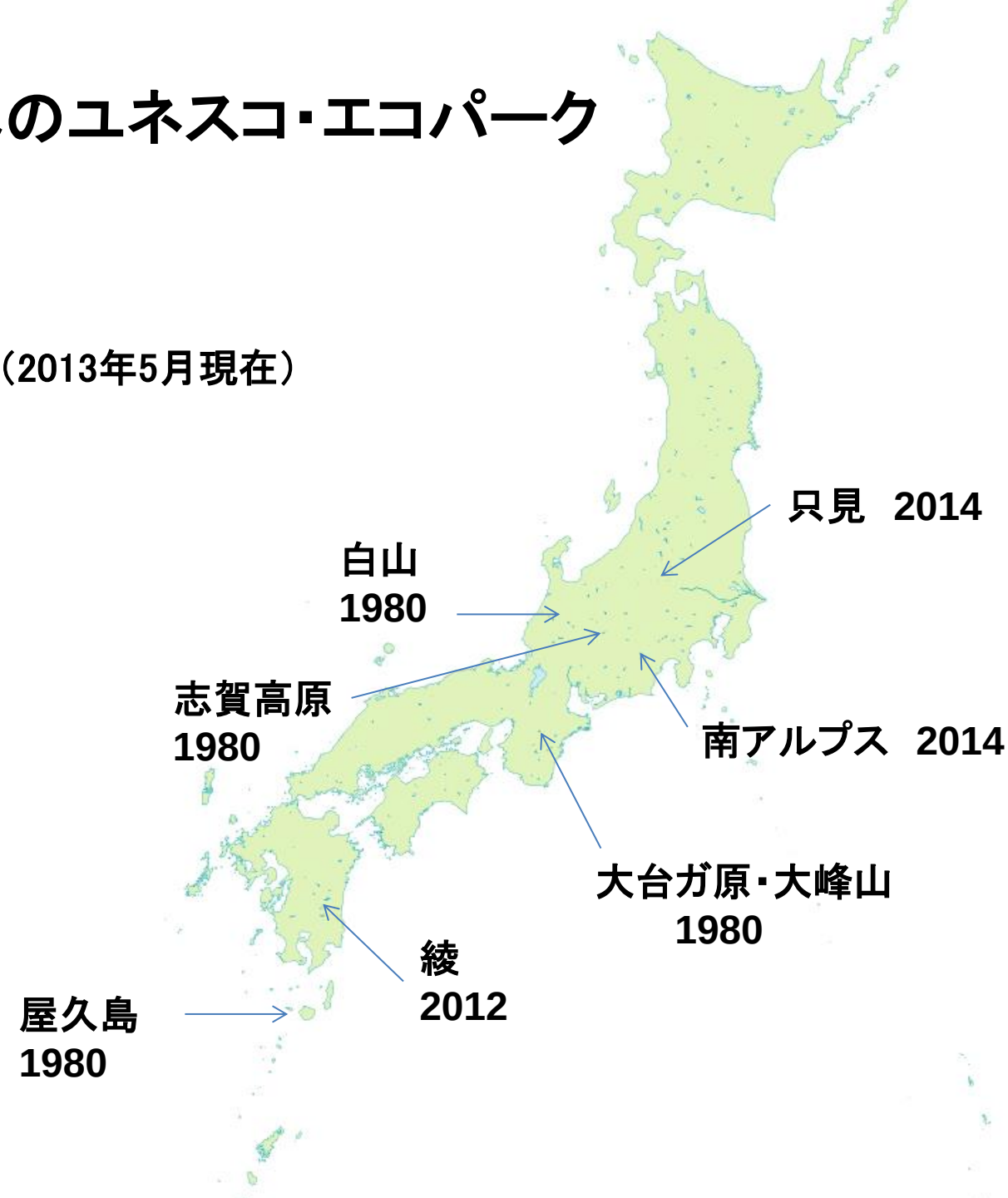
◆人間と生物圏（MAB）計画　（1971年）
生物多様性の保護を目的に、
自然及び天然資源の持続可能な利用と保護に関する
科学的研究を行う。

◆世界遺産条約　（1972年採択）
傑出した文化遺産・自然遺産を保護するための国際条約

MAB: Man and the Biosphere Programme

日本のユネスコ･エコパーク

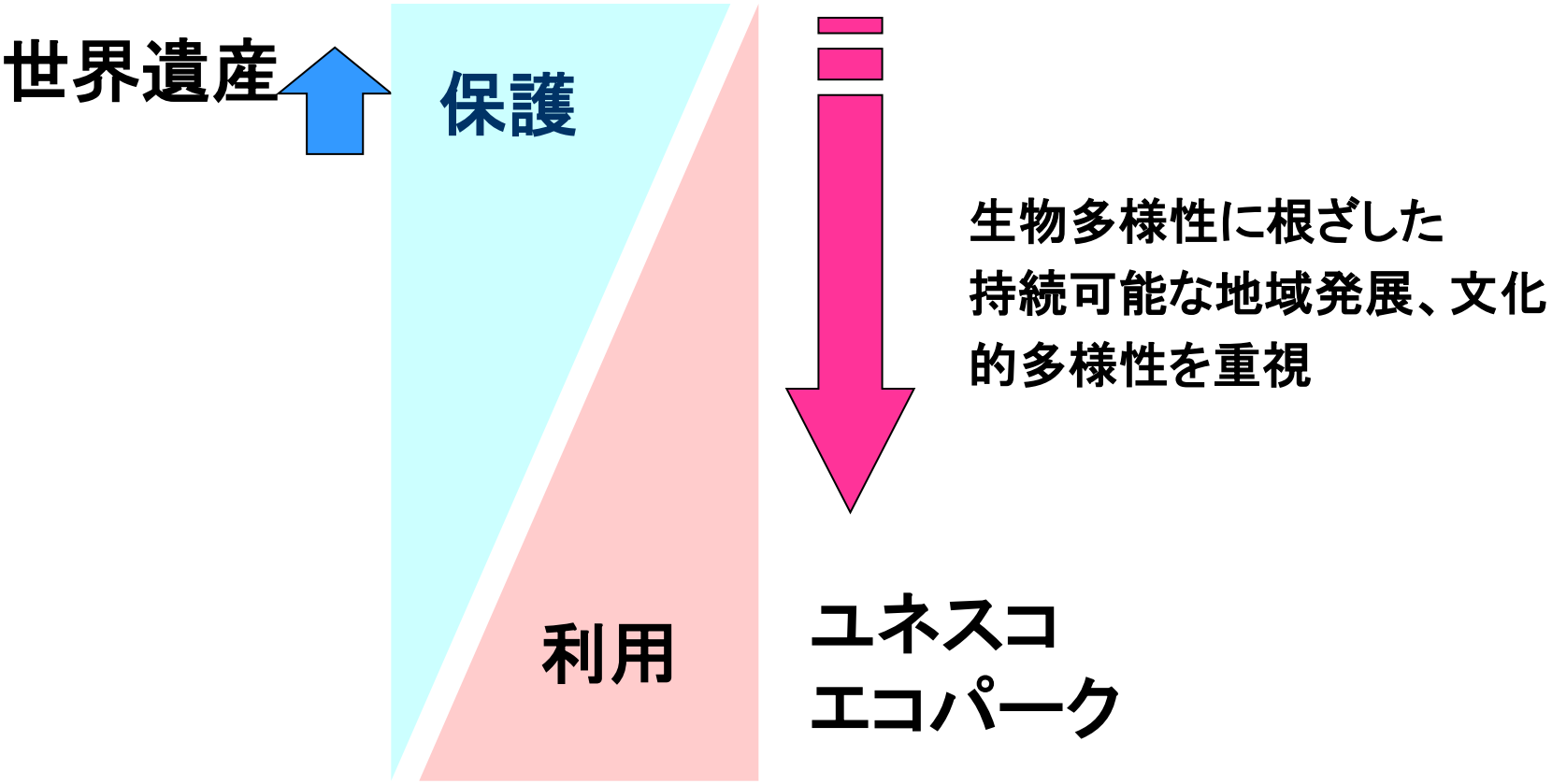
世界で
117か国621件（2013年5月現在）



MABの基本理念：

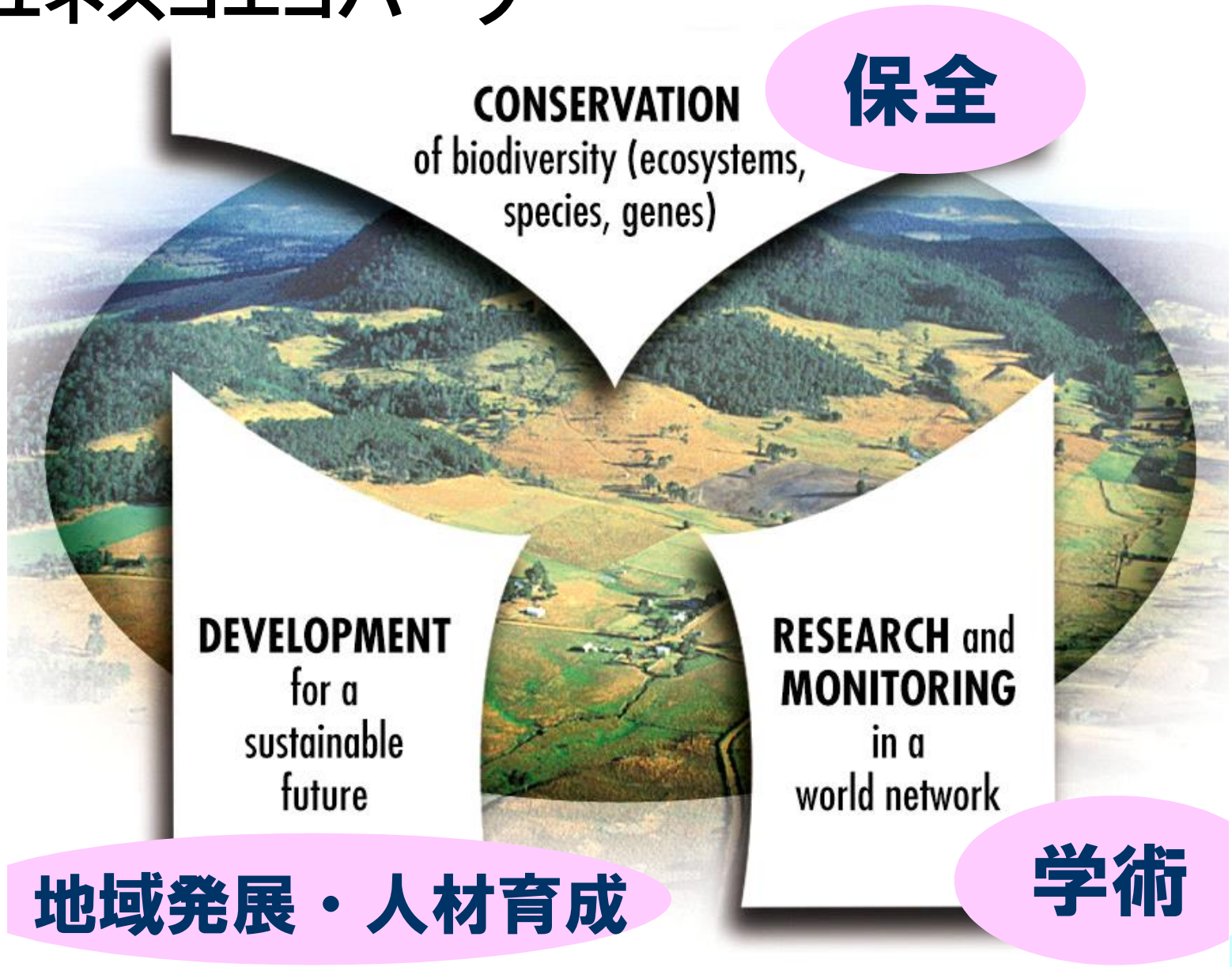
自然と人間社会との共生

「手付かずの自然」を絶対視しない



作成：横浜国立大学　酒井暁子氏

ユネスコエコパーク



酒井氏

口永良部島は、今のままでも　エコパーク

自然の
保護

えらぶ年寄り組

＋

自然の
活用

区や青年たち

自然の場で
学習・学術

目標は
雇用確保、若人の来島増、定住者の増

↓

Goal　子々孫々、住み続けられる島

QOLを考える

QOL て？　　清水哲郎氏

QOL
（1）主観的満足度の評価
　生活の満足ないし充実度

（2）置かれている環境の評価
生活がなされる環境に置かれた人の人生のチャンスないし可能性（選択の幅）をどれほど広げているか（自由度）

QOLの基礎理論：東北大学　清水哲郎氏

QOLて？　　中谷茂一 氏

QOLは、
物理的な豊かさやサービスの量、個々の身辺自立だけでなく、精神面を含めた生活全般の豊かさと自己実現を含めた概念。

1960年代までの医学や福祉、ADL(日常生活動作)

聖学院大学　中谷茂一 氏

QOLて？

吉川明守・宮崎隆穂 氏

1970年代
生活の豊かさに対する評価が、量的指標よりも質的指標
保健医療の医療評価
　治癒率や生存率など量的指標
　　➔ ➔ ➔患者自身の主観的評価を重視
　　質的指標へと変化

1980年頃
知的障害がある者に対しても、生活の満足や安寧の重要性が認識

QOL研究には
歴史があるが、定義は多種多様

吉川明守、宮崎隆穂「重度・重複障害児におけるQOL評価法の検討」
新潟青陵大学短期大学部研究報告　第38号（2008）

口永良部島の
QOL

理想の暮らしではない

マイナス面
　QOLのレベル　低

プラス面？
　あるのか？

田舎暮らしに殺されない方法（朝日文庫）
丸山　健二

マイナス面

体力が必要

人付き合い

騙される

期待外れ

→ 主体性がないと

×

しかし、現実として

口永良部島では

島民は、しっかり暮らしている。

しかも・・・・・・・・　生き生きと！

島に来ると
元気になる人たちがいる

どんな人たち　が　何に出会うのか？

休息したい人たち
困っている人たち
登校できなくなった子供たち

→

島での出会い
生きる力を持った人たち
痛みの分かる人たち
元気な子どもたち
受け入れてくれる
「人」と「自然」と
ゆっくりとした「時のながれ」

では
口永良部島が理想郷か？

どちら？

過疎地・離島ばかりで良いのか？

大都市だけで良いのか？

必要なのは

大都市型
過疎地・離島型の

→ 共存

島は、

異なる価値観での暮しがある

安らぎの場、ふり返る場、
学びの場、発見の場
今ひとつの選択肢としての価値

どんな環境にあろうが、QOLは

自らの価値観

自ら創りだせば良いのでは。

口永良部島に
今後の展望はあるのか？

島には、

◆異なる価値観での暮しがある

→ 安らぎの場、ふり返る場、
学びの場、発見の場
今ひとつの選択肢としての価値

◆移住・一時滞在
さまざまな障害からの一時避難所
自然を学ぶ場
都会の生徒・児童の受け入れ

→ 島に活路あり

ご清聴を感謝します。
2010/11/27